

施設ご案内・交通ご案内

介護老人保健施設 女池南風苑

〒950-0943 新潟市中央区女池神明1丁目3番地3
TEL(025)284-3411 FAX(025)284-2188

在宅介護支援センター 女池南風苑 [指定居宅介護支援事業者]

〒950-0951 新潟市中央区鳥屋野2009-3
TEL(025)283-0500 FAX(025)283-0663

新潟南訪問看護ステーション

〒950-0951 新潟市中央区鳥屋野2009-3
TEL(025)284-7511 FAX(025)283-0663

にいがたみなみ めいけクリニック

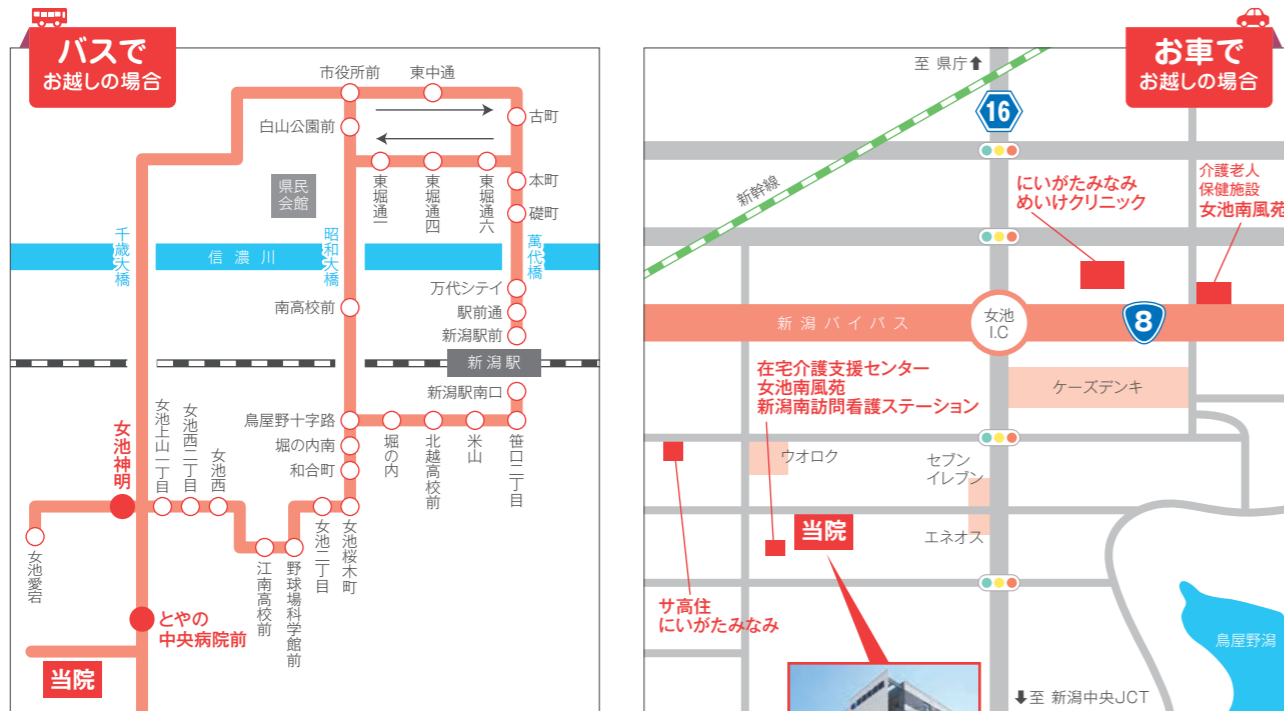
〒950-0943 新潟市中央区女池神明1丁目7番地8
TEL(025)284-7818 FAX(025)284-7830

サービス付き 高齢者向け住宅 サ高住 にいがたみなみ

〒950-0950 新潟市中央区鳥屋野南3丁目25番16号
TEL(025)284-3535 FAX(025)282-7226

院内保育所(24時間保育) わんぱく園

〒950-0951 新潟市中央区鳥屋野2009-3
TEL(025)284-9563



新潟駅南口方面からお越しの場合
(S51女池線)女池愛宕行(3番線)にご乗車いただき「女池神明」で下車 徒歩15分
新潟市役所方面からお越しの場合
(S1市民病院線(6番線)にご乗車いただき「とやの中央病院前」下車、徒歩5分

上記以外にも、最寄りのバス停から当院までのルートを下記のURLにて調べることができます。

にいがた新バスシステムの時刻表・運賃検索

<https://transfer.navitime.biz/niigatabrt-newsystem/pc/map/Top>



フロアご案内

1階	10 総合受付	11 小児科 <small>小児言語聴覚療法</small>	12 内科	13 中央処置室 <small>採血 点滴 化学療法</small>	14 放射線	15 内視鏡・生理検査	16 救急・時間外
2階	21 母乳外来	22 整形外科・外科・皮膚科・泌尿器科	23 眼科	24 歯科・婦人科	25 ドック・健診センター		
3階	31 手術センター	32 管理部門					
4階	● 西病棟 401 ~ 420	● 東病棟 451 ~ 469					
5階	● 西病棟 501 ~ 515	● 東病棟 551 ~ 561					
6階	● リハビリテーション室	● 西病棟 601 ~ 610					

みなみだより

平成31年
4月号 [vol.14]

小児科のご紹介	2・3
産婦人科のご紹介	4・5
病棟のご紹介(その2)	6
病棟のご紹介(その3)	7
検査部のご紹介	8・9
施設ご案内・交通ご案内	10

医療法人 恒仁会 新潟南病院

介護老人保健施設 女池南風苑
在宅介護支援センター 女池南風苑
[指定居宅介護支援事業者] 女池南風苑
新潟南訪問看護ステーション
にいがたみなみめいけクリニック
サ高住 にいがたみなみ
院内保育所(24時間保育) わんぱく園

〒950-8601
新潟市中央区鳥屋野2007-6
TEL(025)284-2511(代表)
FAX(025)284-2080

<http://www.niigataminami-hp.com>

基本理念：
医療・保健・福祉活動を通して地域社会に貢献し、
社会的責任と与えられた使命を全うします

小児科のご紹介



小児科部長 伊東 達雄



夏休み 那須どうぶつ王国にて

はじめまして、新潟南病院小児科です。小児科は昭和53年4月21日の新潟南病院創立当初から診療を行っています。これまでは、主として一般的な病気を対象に地域の方々に医療を提供してきましたが、現在に至るまでの間で、産科の閉鎖（婦人科は現在もありません）や予防接種をはじめとした医療の進歩などもあり地域の当院における小児医療のニーズは日々変化してきました。最近の傾向としては少子化・核家族化が進み共稼ぎのご家庭が増えることで、予防治療と入院に至らないようにするための診療に主眼が置かれるようになりました。

こうした流れのなか、新病院となり全身を診て総合的に診断と治療を行う体制はかえないまま、あらたに昨年6月に発達外来と小児言語療法室を立ち上げ、おもに就学前までのお子さんのことばやコミュニケーションに関するご心配について、医師と言語聴覚士が相談に応じ、訓練を通じて発達を促すことを目的として運営しています。新潟県内では小児のこうした訓練を行える医療機関が少ないことから、少しでも子どもたちの成長をサポートできればと考えています。

また、新病院となつての皆様にもみていただきたい点としては、特に設備の面で、外来で子どもさんが靴を脱いで遊べるスペースを設け内装も明るい雰囲気になったこと、入院の病室は感染予防と少しでもプライバシーを保護する観点から個室とすることも行いました。

診療面では、これまでどおり紹介状は必要とせず一般外来を医師3名の交代で行っております。対象となる疾患は急性疾患である感染症や慢性疾患として喘息などや発育の問題等をみさせていただきます、必要であれば専門医にご紹介いたします。ただし予防接種、乳児健診はできるだけ一般診療の患者さんとの接触を避けていただくため、予防接種、乳児健診の時間のみとさせていただきます。発達外来と乳児健診については、予約を必要と

しますが、予防接種については、特別な予約は必要ありません。尚、予約方法については、病院ホームページの小児科から乳児健診および小児言語聴覚療法室の案内に詳細がありますのでご参照ください。

これからも地域医療の一助になればと考え努力してゆきます。どうぞお見知りおき下さいますようお願いいたします。

受付



待合



待合内遊び場



診察室



小児科外来

小児言語療法室
外観



産婦人科のご紹介



産婦人科部長 児玉 省二



新病院の産婦人科外来は、旧病院と同じ床面積でありながら大変広く感じられ、内診室も第一と第二に分けられ、より機能的になりました。第一内診室は、通常の診察に使用し、新たに導入された診察台は自動で昇降し回転と開脚がされるようになりました。また、新しい診察ユニットは、光調整が良好で観察と器具の選択作業も容易になりました。そこには、新しく導入された超音波断層装置が設置され、より鮮明な画像と便利な機能で正確な診断に役立っています。第二内診室は、主にコルポ診(拡大鏡)検査や子宮鏡(内視鏡)検査を実施しています。ここには、従来の超音波断層装置も常設され、補助診断として各種検査と並列での使用が可能となりました。解像力の高いコルポ機器や子宮鏡検査で撮影された画像は、電子カルテ内に保存され、どの部署でも観察できるため患者さんへの説明や手術に際して病変の再確認に大いに役立っています。このシステムは、現在まで他の病院での導入を聞かず、当院独自のようです。コルポ診は、子宮頸がん検診で細胞診に異常があった場合の精密検査法で、初期病変の診断に有効です。当科では、子宮頸部の初期がん病変の手術は日帰手術も行ない、同手術を新潟県内で実施する施設は少なく、当院が最も多い実績を誇っています。また、子宮鏡検査は、子宮の内部を直接観察するファイバースコープを使用し、子宮内膜ポリープや子宮体癌の発見に大いに役立っています。婦人科外来で子宮鏡検査を実施している施設は極めて限られ、発見された内膜ポリープを積極的に切除することで診断困難な子宮体癌症例も発見されています。

第二診察室は、第一診察室に隣接し、①患者さんへの手術前の説明、②救急患者への対応、③医療相談の場、となっています。この第二診察室は、第一診察室と同時に一般診療が可能となる電子カルテと画像装置が併設され、人間ドックなどの診察も可能となっています。

中待合室は、廊下とはドアで隔絶され、プライバシーが守られ、椅子は長椅子15人個人

掛となり、ゆったりとした雰囲気テレビ視聴しながら診察を待つことができるようになっております。

是非、当院の充実した設備のもと、診察に来られてください。



病棟のご紹介 その2



5階東病棟師長 波田野 照美

5階東病棟は地域包括ケア病棟といってリハビリを行いながら退院に向けて準備する病棟です。一般的に患者さんが体調不良で入院すると治療が終了したら退院となります。

しかし、病状がよくなっても必ずしも入院前までの体調に戻ることができない場合があります。そのために自宅の準備やリハビリを行いながら、安心して退院できるように多職種でサポートしています。

包括ケア病棟に入院されると退院後の生活のご希望を伺いながら、現在の身体の状況を見て自宅の環境を調べ、自宅改修や退院後のサービスの内容を看護師、介護士、リハビリ、ケアマネージャー等の多職種で退院に向けて検討します。患者さんの病状や日常生活動作によって介護保険の申請・更新の手続きをする場合もあります。また患者さんの食べやすい食事内容の検討や介護技術の指導、訪問看護・介護の導入、在宅酸素の準備等も行います。病気によっては完全に治らないこともあります。加齢とともに病状が再発する場合があります。そのたびに患者さんの日常生活動作のレベルも変化していきます。その中で少しでも患者さんが希望する、その人らしくいられる生活に近づけるように退院後の生活を整えたいと考えています。

認知症の患者さんに対しては、介護側の意向を患者さんに伝えてもうまく伝わらないことがあり、むしろ患者さんが混乱することがあります。患者さんの意向を確認しながら対応しています。入院することで認知症が悪化することもあります。レクリエーションなどを通してコミュニケーションや運動を行い、患者さんのできる力を保てるように取り組んでいます。

在宅への退院の調整は医療者だけが中心になってできるものではありません。

入院中から退院に向けての意向を医療者に伝えていただき、一緒に考えていくことでスムーズに患者さんご本人や家族の考えている在宅での生活に近づけることができます。



病棟のご紹介 その3



5階西病棟師長 清水 智子

5階西病棟の紹介をしたいと思います。

当病棟は、内科と整形外科の混合病棟です。内科では、心不全や誤嚥性肺炎など慢性的な疾患で入院される患者さんの他に、ペースメーカーの手術を受けられる方も入院されています。整形外科では、春から新しい先生を迎え幅広い分野の疾患に対応していきます。

新病院に移転してからは、トイレの数やお風呂などアメニティが充実し、お部屋も個室と特別室が合わせて8部屋、4人部屋が7部屋ありご希望に沿ったお部屋の選択ができ快適な入院生活を送っていただけるようになっています。入院された患者さんやご家族からは「新しい病院になりきれいでよかった」「プライバシーが守られている」といったお言葉を頂いています。

南病院に入院される患者様の多くが80歳以上の高齢の方です。5階西病棟でも入院されている患者さんの8割以上が80歳を越えています。それまで一人で生活をしてきた方や、ご高齢のご夫婦で生活をされてきた方など、入院前の環境はさまざまですが入院をきっかけに環境が大きくなってしまふことで、元の生活環境に戻ることができるのか不安に思われる方もたくさんいらっしゃいます。

そこで、入院された時から退院後の生活を考え、私たちは日々患者様一人一人と関わり今までの生活が継続できるよう、体の機能の回復に応じて退院後の生活に必要なサービスの検討をしています。

まず、今までの生活状況をお聞きし退院後の生活で何らかのお手伝いが必要になるのかを検討します。そして、患者さんやご家族の方が入院前から体のことや生活のことなど不安に思われていることはないか伺います。その情報から病状の経過に合わせてサービスの提案をしたり、医療相談員やリハビリ部、管理栄養部などほかの職種とも連携を図りながら進めていきます。

介護保険についても、利用されていなかった場合でも新規の手続きの方法や変更申請の手続きについてもご相談を受けていますので、いつでもお声掛け下さい。

これからも研鑽を続け、患者さんやご家族のいちばん近い医療者として安全・安心な看護を提供できるよう頑張っていきたいと思っています。



検査部のご紹介

検査部技師長 伊藤 太地子



昨年11月1日に新病院に移転となり、検査部も新しい病院で日々検査を行っています。

そこで新潟南病院の検査部を紹介させていただきます。

検査部は2つに分かれています。1つは「生理検査」です。1階フロアで内視鏡検査と一緒の受付です。もう1つは「検体検査」でこちらは2階フロアにあります。

生理検査室が患者様・利用者様に分かり易い所にあるのに対し、検体検査室は2階のStaff Onlyのドアの奥、案内にも載ってない(?)シークレットの所で日々検査に励んでいます。

では、新しくなりましたそれぞれの検査室についてご紹介します。

1. 生理検査室

心電図検査を始め下記の検査を行っています。

- ・心臓エコー検査(小児心臓エコー検査)
- ・頸動脈エコー検査
- ・下肢静脈エコー検査
- ・腹部エコー検査
- ・睡眠時無呼吸検査
- ・トレッドミル検査
- ・24時間血圧測定検査
- ・神経伝導速度検査
- ・脳波検査

この他に「血管健診」も行っています。血管の硬さや詰まり(動脈硬化)を調べる検査です。

専用の血圧計で手と足の血圧を測り脈波の伝わり方を比較します。15~30分程度の検査です。気になる方は是非一度受けて下さい。

生理検査室の特徴は、まず受付が内視鏡と一緒に広い空間となり、更にプライバシーにも配慮したレイアウトになりました。心電図室2室、心臓エコー室、脳波室、トレッドミル等の検査室各1室となり安心して検査を受けて頂けます。

また、心臓エコーなどの検査予約枠も拡大し、今まで以上に患者様の要望にお応え出来るようになりました。



1階 生理検査室

2. 検体検査室

患者様から採血した血液検査や、尿、便などの検体検査を行っています。

新病院移転時5つの新しい機器に入れ替えました。

新しい検査機器を紹介します。

- ・血液:多項目自動血球分析装置 XN-1500(シスメックス)
- ・凝固:全自動血液凝固測定装置 CP-3000(積水メディカル)
- ・生化学:全自動生化学測定システム ビトロス4600(オーソ)
- ・血糖:全自動糖分析装置 GA09II(A&T)
- ・HbA1c:自動HbA1c分析装置 HLC-723 G11(東ソー)

新しい機械は様々な利点があります。

糖尿病検査のHbA1c測定機器(HLC-723 G11)はその1つですが、測定時間が短縮され結果が早く報告出来るようになりました。また、貧血などを調べる血算の測定機器(XN-1500)は最新のもので、今まで以上に異常細胞の検出精度が向上しました。このような利点を日常業務に反映しています。



血液:多項目自動血球分析装置 XN-1500(シスメックス)



凝固:全自動血液凝固測定装置 CP-3000(積水メディカル)



HbA1c:自動HbA1c分析装置 HLC-723 G11(東ソー)

最後に検査部は2つの検査室内に留まっているだけではありません。

検査室から飛び出し、病棟の入院患者様の至急採血やドック・健診の採血、外来処置室では看護師と共に採血やインフルエンザの鼻腔の検体採取等も行っています。

病院のあちこちで出没していますので、検査で何かお聞きになりたいことがありましたら、遠慮なくお声掛け下さい。

今後も診療に役立つ検査を行い患者様を陰でサポートするとともに、来院して頂いた方々から気軽に声を掛けて頂けるよう努力してまいります。

どうぞ宜しくお願い致します。

